



日民協のホームページがリニューアルされました

4月1日、日民協のホームページが無事、リニューアル公開された。まだご覧になっていない方は、「日民協」と検索するとすぐに出てくるので、ぜひご覧下さい。スマートフォンでもきれいに見られるタイプです。

何年も前から、ホームページ(以下「HP」と略す)を何とかしたいと事務局の林さんから言われていた。林さんのたゆまぬ努力で、『法民』最新号の紹介は毎月丁寧になされている一方で、2006年くらいで更新がストップしているメニューも多々あり、見た目もいかにも旧式だった。これでは若手会員の獲得もおぼつかないのではないか。ということで、ようやく昨年10月、本格的なリニューアル作業が始まり、事務局長である私が責任を持たなくてはならなかった。

私は、仕事上インターネットにはお世話になるものの、SNSもせず、日民協のHPすらろくに見たことがなく、HPの担当者としては不適任きわまりないのだが、「安倍改憲阻止」で走り回っている執行部の面々に仕事を押し付けることもできず、ひたすら黙々と作業して何とか4月1日にこぎ着けた。業者は『法民』の印刷製本をお願いしている「きかんし印刷」。何もわからない上、注文だけは細かい私に、同社の担当者は辛抱強くつきあい、驚くべきスピードで作業を進めて下さった。この場を借りてお礼を申し上げます。

しかし、こういう作業をすると、1961年に設立された日民協の歴史が見えてくる。「日民協紹介」のページには初代からの共同代表理事の一覧表をつけたが、海野晋吉、末川博、平野義太郎、戒能通孝、鈴木安蔵…といった錚々たる方々が並んでいる。鈴木安蔵先生って、民間憲法草案を作った方ですね…。「集会・イベント」のページには、ここ数年の集会を、チラシを探し、添付して紹介した。「法律家6団体」主催のものが多く、最近の日民協が法律家のネットワークの要の役割を果たしていることがおわかりいただけると思う。

新しいHPでは、『法民』の注文メールがリアルタイムで私のところにも届く。何と全国から毎日のように届く。職業は「会社員」「自由業」などまちまち。どのようにしてこのHPに辿り着いて下さった方々なのだろう。しみじみ嬉しく、とても励まされる。

ともかくも、スッキリして新しい情報を更新しやすいHP、そして、初めてHPを訪れた方に日民協をわかっていただけのHPを心がけたつもりである。皆さんのご意見をいただきながら、これからの日民協の歴史を刻み、充実したHPに育っていければと思う。

※ ※ ※

ところで4月1日は、「新元号」発表の日でもあった。11:30に発表されるというので、意味もないことだが、それよりも前に日民協のメーリングリストで「HPリニューアル」を発表したかった。ところが色々手間取り、こちらの発表は11:36。しかし「新元号」発表はさらに遅れて11:41。水島朝穂先生は、11分の遅れは権力による「時間の管理」なのだと講演で言われていた。「待ちに待った」雲囲気を出そうとしたのだと。

それはともかく、「新元号」のお祭り騒ぎと、「平成にさようなら」的な記事・番組の洪水には驚いてしまう(ついでに言うと、明仁氏個人の人格や言動と、象徴天皇制のあるべき姿という制度論が、いっしょくたに論じられていることも理解できない)。

私には「新元号で時代が変わる」といった感覚はまるでない。それよりも「4月1日、新HPで日民協の時代が変わった」という方がまだ実感がある、というのはあまりに手前味噌としても、参院選で改憲勢力が3分の2を割り、それによって安倍政権が終わった時こそ、「時代が変わった」と思えるだろう。その日のために、新しいHPが少しでも役立てば嬉しい。

(日民協事務局長 米倉洋子)

※編集後記

協会のホームページのリニューアルがやっと実現し、すがすがしい4月を迎えたと思いきや、「平成最後」「ようこそ令和」と声高に繰り返されるメディア報道にうんざりし、散りそうで散らない桜に何か不気味さまで感じながら、落ち着いた気分が過ぎてしまった。4月号の発刊日が遅くなるとともに、5月号の企画立案がなぜか長い5月の連休に阻まれアタフタしている。季節の流れも歴史の流れも、もっともっと豊かな物差しではかりたい。

(林 敦子)